



写真1：^{さしぜに}縹銭〔原寸〕

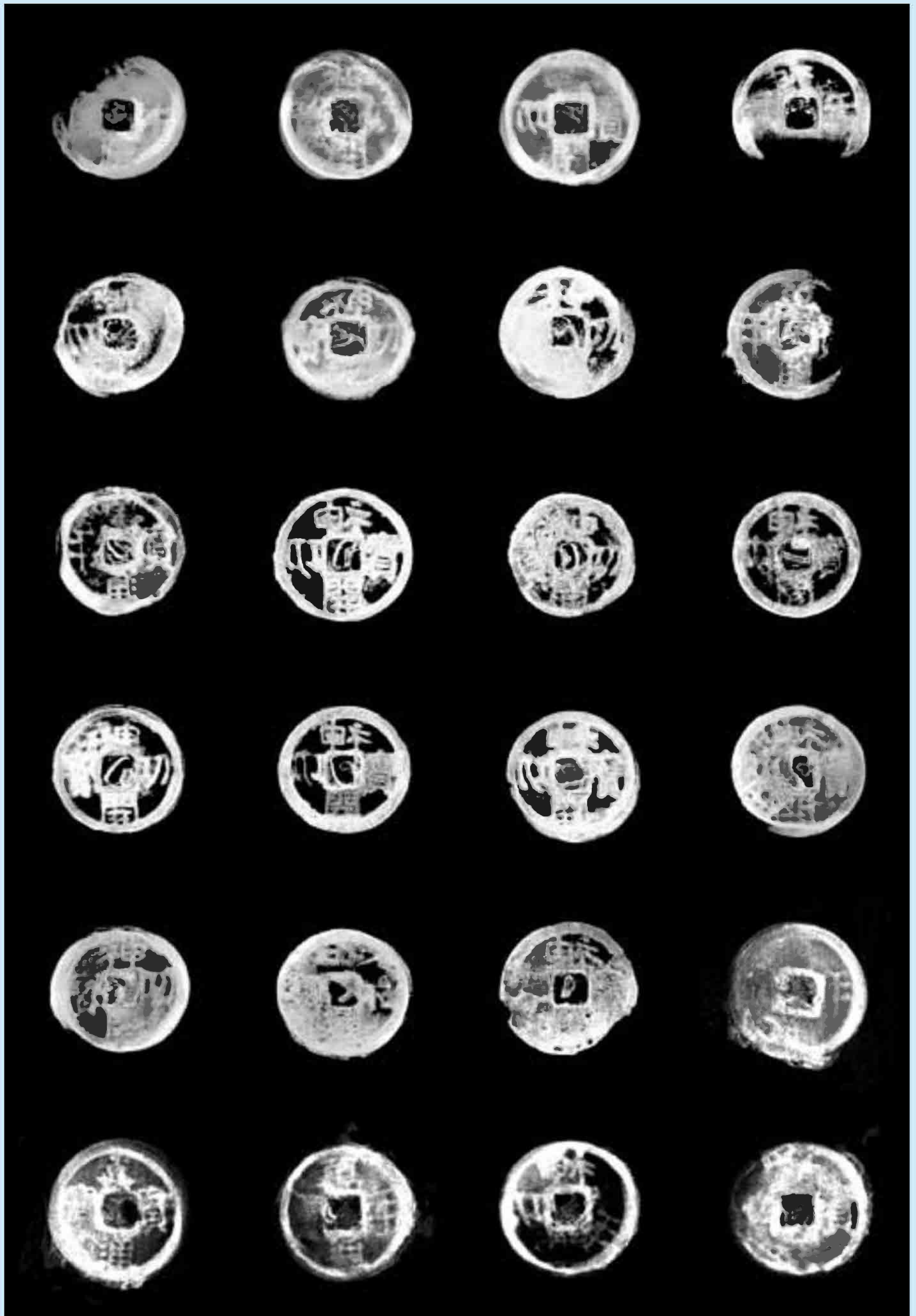
文化財用X線CTによる銭貨の調査

写真1に示した^{さしぜに}縹銭は、京都府長岡京市の長岡京跡(右京四条三坊十町)から出土したものです。縹銭とは孔の開いた銭貨を縹(さし)に通された状態のことを示す名称です。

縹銭の銭貨の種類は、通常、固着した銭貨を切り離して調査をおこないます。しかし出土時の縹銭の形状を保持した状態での保存を図るために、非破壊で調査できるX線CT法により断層写真撮影をおこない、銭種を明らかにすることにしました。得られた断層画像のうち、銭種の判明したものの一部を写真2に示しました。X線CT撮影に際し、銭貨に鋳された文字をできる限り判読するため、数回縹銭の向きを変えて撮影しています(写真スケールは任意、銭の直径は2.4cm前後)。

総数は72枚と判明し、そのうち58枚の銭種を明らかにすることができました。判明した銭種は、和同開珎(708年初鋳)、万年通宝(760年初鋳)、神功開宝(765年初鋳)の3種類のみであり、神功開宝36枚、万年通宝16枚、和同開珎6枚を確認することができました。

(埋蔵文化財センター 降幡順子)



さしげに
写真2：緡銭のX線CT画像